



ケニアから二つの物語が

KENYA

吉野 雅子

鳥取県米子市立住吉小学校

◆実践教科 生活科
 ◆時間数 8時間(発表会練習5時間を含む)
 ◆対象学年 第1学年
 ◆対象人数 120名

◆実践教科 総合学習
 ◆時間数 42時間(ケニア学習4時間)
 ◆対象学年 第4学年
 ◆対象人数 127名

私は、ケニアの1時間の授業を1年生と4年生を対象に行った。この授業をきっかけにしてそれぞれの学年で授業後、下記のような広がりを見せた。ここでは、1年生と4年生のそれぞれの学年がどのように授業が展開していったのかを紹介する。

ここが素晴らしい!

子どもたちは始め「ケニアの子供はかわいいそう」と感じたが、ケニアの子どもたちの笑顔をきっかけに、ケニアのステキなところを見つけることとなった。物の豊かさだけではなく、心の豊かさを伝えました。

カリキュラム

■実践の目的

- ・五感を通じてケニアの文化にふれ、ケニアの文化が感じられるようにする。
- ・ケニアの問題を自分たちと比べて1年生なりに考えることで、自分たちの環境や生活を大切にしようと思えることができる。
- ・国際社会を生きていく上で、外国の文化・習慣を正しく理解し、積極的に異文化に触れようとする態度を育てる。
- ・いろいろな国のよさやお互いの違いに気づき、よりよい自分や生活を目指す。

■授業の構成

●1年生		●4年生	
1時限目 テーマ これは何でしょう？ 方法・内容 <ul style="list-style-type: none"> ・カンガの布を用意して、何に使うかをいろいろ考える。 ・ケニアの服であることを伝え、どんな風に身につけるか実際に着衣する。 ・ケニアを身近に感じるようにぞうの絵本を読んでケニアの紹介をする。 使用教材 <ul style="list-style-type: none"> ・カンガの布 ・絵本(だいじょうぶだよ ゾうさん) 		1～10時限目 テーマ いろいろな国を調べようパート1 方法・内容 <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの話を書く。 ・アメリカの人と交流をする。 ・中国の人を招待する。 英語や中国語であいさつをする。 外国の歌や遊びをする。 生活の様子を知る。 使用教材 <ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・GT(アメリカ・中国の人) 関連教材 <ul style="list-style-type: none"> ・国語「ポレポリ」 ・国語「世界一美しいぼくの村」 	
時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材	
共通導入授業 1年生(2時限目) 4年生(7時限目) テーマ ケニアってどんな国？ ねらい ケニアについて、話を聞いたり、調べたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ケニアクイズに答えながら、ケニアの写真を見る。(4年生は事前にケニアクイズの答えを考えておく。) ～ケニア旅行に行くという設定をして写真を構成し、ただ、見るだけではなく、クイズに答えたり、これは何かなど考えたりしながら見ていくようにする～ ・カンガの着衣をする。 ・ケニアで購入したお菓子を食べる。 	ケニアの国旗 カンガの布 写真 お金 ケニアの子どもたちの手紙 ケニアのお菓子	

<p>●1年生</p> <p>3時限目 テーマ ケニアの話をもっと聞こう 方法・内容 ・ケニアの写真をみる。 ・ケニアの動物や学校の話を書く。 ・ケニアの友だちのくらしを考える。 ・ケニアの歌を聞く。一緒に歌ったり、踊ったりする。 使用教材 ・写真 ・歌（ジャンボジャンボ）</p>	<p>●4年生</p> <p>12～30時限目 テーマ いろいろな国を調べよう パート2 方法・内容 ・エジプトの話を書く。 ・興味をもった国について本やインターネットで調べる。 ・調べたことを体験してみる。 使用教材 ・本、インターネット ・写真 ・GT（エジプト在住の方）</p>
<p>4～8時限目 テーマ ケニアのことを学習発表会でみんなに伝えよう 方法・内容 ・学習発表会に向けてケニアグループを作り練習する。 ・ケニアのあいさつを知る。 ・ジャンボジャンボの歌や踊り・せりふの練習をする。 使用教材 ・歌（ジャンボジャンボ）</p>	<p>30～40時限目 テーマ 調べたことをまとめて発表しよう 方法・内容 ・調べたことをまとめて友だちに発信する準備をする。（まとめ方の条件：その国を選んだ理由を入れ、日本と比較して考える） ・発表会をひらく。 使用教材 ・本、インターネット ・体験時の写真や実物 等</p>
<p>●1年生（学習発表会・学校のみならず保護者・地域の人への発信） ●4年生（調べた国発表会・学級の友だちと先生、1年生への発信）</p>	
<p>9時限目 テーマ ケニアのことを伝えよう ねらい みんなで考えたことをもとに劇を作り発表し、学校や地域の人にケニアのことを知らせる。 方法・内容 ・国語「サラダで元気」の話をもとにアフリカぞうのふるさとのケニアへ行くという内容。 ・ケニアグループの子どもたちがケニアのあいさつや歌・踊りで劇を行う。 使用教材 ・歌（ジャンボジャンボ） ・写真（演技中にバックに投影する。）</p>	<p>41～42時限目 テーマ 調べたことをみんなに発信しよう ねらい 調べたことを自分の言葉で整理し、分かりやすく話すことができる。 方法・内容 ・調べたことをまとめて友だちに発信する。 ・友だちの発表を聞いて感想を言ったりメモをとる。 ・発表用掲示物を展示し、友だちの発表のよいところを認め合う。 ・発表に使用した原稿・メモ等を総合的な学習の時間のファイルにまとめて活動を振り返る。 使用教材 ・発表用掲示物 ・総合学習のファイル（1年生への準備） ・1年生ケニアクイズ ・発表原稿を1年生に分かるように書き直す。</p>

授業の詳細

1年生 1時限目 これはなんでしょう？

1年生の子どもたちが、アフリカやケニアという国を身近に感じられるように、身に付けるもの（カンガ）のクイズや子どもの好きな動物の話をして、次時につなげていくための導入とした。

1年生 2時限目 4年生 7時限目 ケニアってどんな国？

1年生・4年生に同じ内容で授業を行った（別々の時間に）。1年生は、保護者参観日の授業として行ったので、保護者にも一緒に見てもらっ

た。帰ってから親子でケニアの話をした家庭がたくさんあった。

児童の感想（1年生）

- ・ケニアの子どもたちの給食が少なくなくて、かわいそうでした。
- ・日本の学校は一人一人椅子に座って、自分の机があるのに、ケニアの子どもは自分の机や椅子がなくてかわいそうでした。
- ・動物がたくさんいて、楽しかったです。
- ・毎日同じ給食でかわいそうです。
- ・ケニアにけんぱんハーモニカがありました。女の子が楽しそうでした。先生も楽しそうでした。
- ・ごはんが食べられない子どももいると聞いて、かわいそうでした。でも、ケニアの友だちの顔はみんなうれしそうでした。
- ・ごはんが少なくなくて、みんなおなかすいてるかもしれません。

4年生には、あらかじめケニアクイズの答えを考えて、授業を受けるようにした。4年生は、前時の学習ですでに2つ（アメリカ・中国）の国の方との交流をし、学習を進めてきている。ケニアに対してもとても興味を持って話を聞いていた。クイズの答えを確かめながらの授業に、答えが出るたびに歓声が上がりとても興味津々で話を聞いていた。以後、自分たちが調べてみたい国にケニアを選ぶ子どもが学級に数人出てきた。ケニアの音楽をかけたり、ケニアのおみやげを見せたりして、雰囲気作りをした。

児童の感想（4年生）

- ・ケニアは、日本と違ってぜいたくができないし、かわいそうな国だと思いました。それでも、ケニアの友だちはみんな仲良く楽しそうにくらしてすごいなと思いました。日本人は、ぜいたくをしてるんだなと思いました。
- ・私は、ケニアの話を聞いて、はじめは、ビルがたくさんあってふつうの所と思ったけど、貧しい学校を見て、びっくりしました。勉強に使う物もなくて、大変な所なんだなと思いました。それでも日本の子どもより勉強をがんばっていてすごいなと思いました。私は、初めて日本に住んでるって幸せ

なんだな、私たちももっとがんばらないといけないと思いました。

所感

- ・ケニアに対し、「かわいそうな国」という感想がいちばん多かった。特に1年生は、学校や教室の様子・持ち物が自分たちとずいぶん違うのにびっくりしていた。また、給食の品数やメニューなどを見て、かわいそうと感じていた。帰宅後、ケニアの話をした家庭もあり、親子で考えることができた。保護者の感想には、「日本の子どもと比べて、ケニアの子どもたちは表情が明るくて幸せそうに見える。」「物があるから幸せであると言えないですね。」というものがあつた。
- ・4年生もやはり「かわいそうな国」という感想が多かった。しかし、自分たちのくらしと比較して見ている子も多く、日本・日本人をあらためて考えて感想を持つ子もあつた。



4年生7時限目「ケニアってどんな国」

1
年生

3
時限目

ケニアの話をもっと聞こう

前時の授業では、ケニアの子どもたちは、とてもかわいそうという感想が多かった。そこで、ケニアの楽しい部分を提示し、ケニアの良さを1年生に伝えようと次の内容を考え実践した。

- ・前時にケニアの写真の中の子どもの表情から、「貧しいけど、楽しそう。」という感想があつた。その感想を取り上げて、ケニアの学校の校長先生の話をしたり、学校や教室の様子だけではなく子どもたちの表情に注目したりして、なぜ楽しいのかなと1年生なりに考えて行くようにした。
- ・動物に興味を持っている子も多かつたので、動

物の写真をたくさん見せて、動物がたくさんいてとても楽しい国である話をつけくわえた。

- ケニアの「ジャンボ」というあいさつを伝え、みんながすぐあいさつをしてくれる、すぐ仲良しになれる、というケニア人の良さを伝えた。そして、「ジャンボジャンボ」の歌にかんたんな振り付けをつけて踊った。

児童の感想（1年生）

- ケニアの校長先生は、やさしいと思いました。子どもたちのためにいろいろなことをしていました。図書館を作るなんてすごい。
- ケニアの友だちは、まじめに勉強していて、すごいです。
- サッカーボールを自分で作るなんて、びっくりです。なんだか、楽しそうです。僕も作ってみたいです。
- ケニアの動物は、広いところで走っていました。いいなあ。
- ケニアの人はみんな笑っていました。仲良く楽しそうでした。
- ケニアの友だちは、おもちゃがなくても楽しそうでした。給食が少なくてみんなおなかですいてるのに、けんかしないなんてすごい。

所感

- 写真の見方や話題を変えることで、子どもたちの中に「楽しそう」や「すごい」の言葉が出てくるなど、子どもたちの感想が変わっていった。
- ケニアの動物（ぞう）と「ジャンボ」というあいさつ、「ジャンボジャンボ」の歌と踊りを入れて、ケニアの良さを伝える劇を作った。

1年生 9時限目 ケニアのことを伝えよう

国語「サラダで元気」は、りっちゃんがお母さんのために元気になるサラダを作る話である。アフリカぞうが出てくるので、アフリカぞうと一緒にケニアに行くという続きを作り、劇を構成した。学習発表会で学校や保護者・地域の人にケニアのことを知らせるというめあてを持って練習を重ねていった。

学習発表会 原稿

だい4まく	せりふ
アフリカぞう	みなさん。 こんどは、ほくのくにに しょうたいします。
りっちゃん	わあ。アフリカぞうさんのくにはどこなの。
おかあさん	アフリカのケニアだよ。
ねこ	いってみよう。
犬	たのしみだな。
ぞうの ともだち①	ジャンボ。
②	ジャンボ。
③	ジャンボ。
あり	みんなが、ジャンボっていってるね。
すずめ	ジャンボってどういう ことですか。
ぞうの ともだち④	ケニアのことばで こんにちほっていうことだよ。
⑤	たくさんの人ともだちになるために
⑥	ほくたちは あいさつをたいせつにしているんだ。
⑦	ジャンボ ジャンボという うたもあるんだよ。
⑧	みんなでジャンボジャンボのおどりをしよう。
*ジャンボジャンボのうたでおどる。	
うま	ああ。たのしかった。 こんにちほって あいさつしてげんきでたよ。
白くま	じゃ。みなさん、ほくはここでおわかれします。 ほっきょくかいのしぜんがいちばんです。
アフリカぞう	ほくもおわかれです。 ほくも アフリカのしぜんがいちばんです。
みんな	じゃ。げんきでね。さようなら。

◎ナレーター①()ケニアでは、あいさつしてげんきになるんだ
 ②()げんきパワーは、あいさつなんだ。
 ③() いろんなくにのげんきパワーがわかったね。
 ④() りっちゃんたちがみつけた4つのパワーは、
 ぜんいんで 「しょくじ」「うんどう」「あいさつ」「なかよし」
 ◎ナレーター()ほくたちががんばるぞ
 ぜんいんで オー

保護者や地域の方の感想

- 1年生の劇を見て、みんなまとまって踊ったり、歌ったりする姿に感激しました。
- 全体の流れ、場面ごとの動きがよく分かって動いていて、子どもの成長を感じました。
- みんな一つ一つの舞台を上手にまとめあげ、すばらしかったです。学校でいろいろなことを学んでいるんだなと思いました。



1年生学習発表会

所感

- 1年生は、たくさんの方の前で張り切って発表していた。
- ほかの学年や地域の大勢の方に1年生の活動を紹介する形になって、とてもよかった。

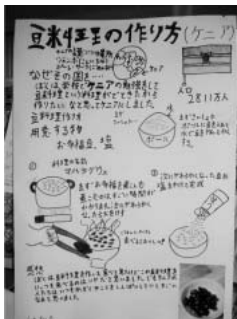
調べたことをみんなに
発信しよう

4年生では、調べ学習の発表会が計画された。

前時の学習で興味を持ち、ケニアを選び調べ学習をした児童が数人いた。ケニアを選んだ子どもは、「日本より貧しい国なので、国の様子を調べてみたいと思った。」「ケニアの豆料理を食べてみたいとおもった。」など、ケニアに興味を持ち調べ学習を進めていた。

ケニアの豆料理を調べて作ってみたYくん

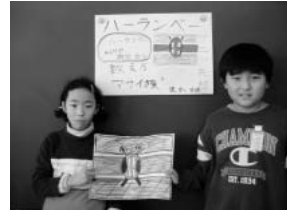
ケニアの話聞くまでは、名前だけ知っている小さな遠い国と考えていた。ケニアの写真に学校給食がでてきた。豆料理がでてきたので、あの豆料理を食べてみたいと思った。本やインターネットで調べてみたが、味付けがなかなか分からなかった。やっと分かって、お母さんと一緒に豆料理を作ってみた。僕は豆料理は嫌いではないが、この料理の味は、あまりおいしいとは言えなかった。毎日少しづらかな。でも、ケニアの料理はまあまあだが、日本より家族みんなで助け合って暮らしていると思った。



豆料理の作り方と実際作った豆料理

「ハランベ」を調べたHさん

ケニアの話聞いて、日本よりおもしろいと感じたが、子ども達の顔が楽しそうに感じたので、もう少し詳しく調べてみようと思った。「ハランベ」という言葉を詳しく調べてみた。人々の中で助け合いができていてすごいと思った。国としてはおもしろいけど、みんな生活に工夫をして楽しそうに暮らしている。だから、笑ってるんだなと思った。ケニアにいてみたいと思った。



4年生は、このクラス発表の後、1年生に発表する用意をして、1年生の教室で発表会を開いた。1年生に分かりやすいように言葉をかえたり、クイズにしたりして楽しく発表した。

所感

私自身は、4年生対象に1時間の授業を行っただけである。それなのに、ほんとうに興味を持っていろいろ調べていてとても感心した。学習の予想外の広がりうれしい悲鳴であった。

成果と課題

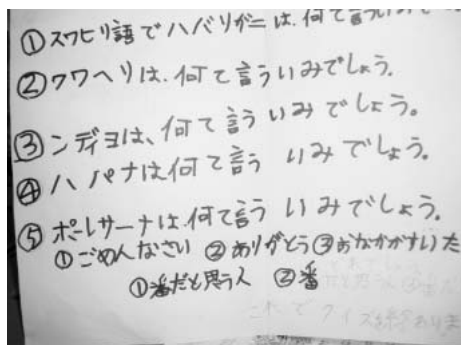
- ・はじめの予定では、現在担任している1年生のみの活動を考えていたが、4年生対象にも授業をすることにした。そのことにより、4年生の国際理解に対する意識が高まったと同時に、4年生の1年生に対する伝え合い活動により、1年生の授業内容にも深まりがでた。
- ・1年生は当初考えていたただ資料を使ってケニアを紹介する流し方では、少し難しいのではと考えた。そこで、まずクイズ等を通してケニアに興味を持たせてから子どもたちの反応をみて以後の流し方を考えていくことにした。1. 2限授業終了後1年生の反応は、ほとんどの子が自分たちと比較して「かわいそう」という感想をもった。しかし、少数ではあったが、ケニアの子どもの表情に注目して「かわいそうだけど、みんな笑っていた。」というものがあつた。また、2時限の授業は、参観日を兼ねて保護者にも見てもらった。保護者の中には、「恵まれすぎている日本の子どもたちは、たくさん物があのに満足していない。ケニアの子どもたちは、物はないけど、素朴なすてきな笑顔をもっている。彼らの方が幸せかもしれません。」というかなり考えた感想があつた。そこで、次時には、1年生の「かわいそう」だけの感想からもう一歩進めて、「ナイロビのスラムの校長先生」「手作りのサッカーボール」「子どもたちの将来の

夢」等の話をしてケニアの人々の気持ちを考えていくことにした。また、野生動物のことに興味をもった1年生も多かったので、動物の話も取り上げ、ケニアのよさや楽しさを1年生なりに考えてみる活動を行った。その結果、以下のような感想を持つことができた。

「1年生なりに考えたケニアのよさ」

- ①ジャンボというあいさつをして、みんな仲良し。
 - ②家族がみんな力を合わせている。子どもはお手伝いをちゃんとする。
 - ③遊び道具は少ないけど、あそび方が上手。
 - ④動物は、日本のような狭いところでは、かわいそう。動物もケニアがすき。
- ・学習発表会では、ケニアのよさや楽しさを入れた劇を行った。劇の背景には、ケニアの写真を映像で流し、他学年・保護者そして地域の方々にケニアのことを紹介する活動をした。1年生の子どもたちにすれば、遠いアフリカのケニアという国の学習だったが、1年生なりに興味を持って取り組めた。特に学習発表会での経験は、子どもたちを大きく成長させた。また、保護者にも参観日での授業がこのような形で進んでいった発表会へ発展していった様子がよく理解されたと考えている。
 - ・4年生は、ケニアの紹介の授業が、4年のそれぞれの担任により進められた。調べ学習に入り、ケニアを選んだ子どもが各学級に2～3人あった。4年生では、調べ学習の中で体験活動を入れていた。授業の時に特に取り上げなかったケニアの豆料理やハランベのこと、スワヒリ語を調べて実際に家庭で保護者と一緒に料理を作ったり、国旗を描いたり、調べ学習の中でいろいろな活動の広がりがあった。また、ケニアを調べた4年生がクラス発表会を終えてから、1年生の教室でもう一度発表会を開いてくれた。その発表は、1年生に分かるように話し方やクイズを入れたすばらしいものだった。また、1年生は、4年生の発表を聞いて、発表の仕方がとても上手であることやケニアのことをさらに詳しく知ることができてとても楽しむことができた。1年生と4年生の交流学習は初めてではあったが、実のある活動になった。
 - ・ケニア学習後、今まで関わりのなかった4年生からケニアの先生ということで声をかけられることが多くなった。この学習を通して子どもた

ちは多くのことを学んだ。ケニアを知ることはもちろん、自分たちの生活と自国以外の生活を比較すること、相手意識を持って発信活動をする事等である。また、私自身も日本から遠く離れた国に自分を置き、自身を振り返ることができるよい機会となった。お世話になったたくさんの方々に感謝の意を表したい。そして、今後さらに国際理解教育の根を広げるために努力を重ねていきたい。



障がい児学級の児童が作ったケニアクイズ